

共育の丘だより 第3号 2015 春

山口大学 大学教育機構 大学教育センター ニュースレター



共育の丘（山口大学 吉田キャンパス）

「山口大学は、教えるだけの教育ではなく、

教員と学生、あるいは地域と一体となって

発見し・はぐくみ・かたちにすることで共に高め合い、

未来を拓く『共育』を目指しています」

『2014 山口大学案内』より

巻頭言

今年度から大学教育センター長を務めることになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、山口大学は昨年度、文部科学省の「大学教育再生加速プログラム（略称 AP）」に採択されました。この取り組みでは、正課教育と正課外教育の共創により、共通教育を中心としたアクティブ・ラーニングを推進し、学修成果可視化モデルの構築をしようとしています。また、新設された「国際総合科学部」で導入される「山口大学能力基盤型カリキュラムシステム（Yamaguchi University Competency-Based Curricular System: YU CoB CuS）」は、学生が自分の到達度を確認し、自主的に学修プランを立案できるようにするための新しい仕組みであり、他の学部にも展開していくことが計画されています。この両者に対応するために、現行の修学支援システムに代わる新しいシステムを今年度中に導入する予定で、そのための準備作業が始まっています（本格稼働は2016年度の予定）。

一方、2013年度から始まった「新しい共通教育」が3年目を迎えています。昨年度に実施したアンケート調査では、多くの教員・学生の方々から様々なご意見をいただきました。このアンケートの結果や種々のデータの分析によって、今年度も引き続き「新しい共通教育」についての検証を行い、共通教育の改善につなげていきたいと思っています。（朝日孝尚 山口大学 大学教育機構 大学教育センター長）

INDEX

P1 巻頭言

P2 大学教育センターの動き

P3 PR!! YC.CAM

P4 関門サミット2014参加記

P5 東洋大学交流訪問記

P6 ワールドカフェ参加記

P7 やまぐち探訪記

P8 YC.CAM募集 & 編集後記

【※本ニュースレターは、（公財）山口大学後援財団「学生の就職支援・教育環境の改善等助成事業」の支援を受け、編集・刊行しております。】

大学教育センターの動き



山口大学・大学教育再生加速プログラム（YU-AP） キックオフシンポジウムに学内外から大勢参加！

2015年3月9日（月）に山口大学・大学教育再生加速プログラム（YU-AP）キックオフシンポジウム「ラーニングコミュニティの創造を目指して～山口大学・大学教育再生加速プログラムの挑戦～」を開催しました。本シンポジウムには、学内外より、高等教育関係者、企業などから150名近くの参加者が集まり、会場も超満員となり熱気あふれるYU-AP事業のキックオフとなりました。

冒頭、岡正朗 山口大学長より開会挨拶と山路尚武 文部科学省高等教育局大学振興課課長補佐より来賓挨拶がありました。特に、山路課長補佐より、AP事業は、大学教育改革の本丸であるとの強い期待感が込められた挨拶がありました。次に、瀨瀬厚 山口大学理事・副学長より、YU-AP事業の概要説明があり、杉元茜 山口大学 理学部学生（YC.CAMリーダー）の登壇・説明がありました。

前半の基調講演では、松下佳代 京都大学 高等教育研究開発推進センター教授（YU-APアドバイザー）より「アクティブ・ラーニングにおけるパフォーマンス評価の可能性」、山田礼子 同志社大学 教育支援機構副機構長・社会学部教授（YU-APアドバイザー）より「学修行動調査の可能性～学修到達度調査との連携～」、橋本勝 富山大学 大学教育支援センター教授（YU-APアドバイザー）より「学生参画型FDの過去・現在・未来」と題して、YU-AP事業のメインテーマに沿った示唆に富んだ講演がありました。



副学長と学生の決意表明

後半のパネルディスカッションでは、講師の3名と瀨瀬理事・副学長、糸長雅弘 大学教育機構 大学教育センター長に加えて、理学部学生（YC.CAMリーダー）の杉元さんが登壇しました。本格的なディスカッションに入る前に、総合司会を務める、林 透 大学教育機構大学教育センター准教授によるファシリテーションのもと、参加者どうして対話（アイスブレイク）を行い、その後、「パネラーと話そう！」と題して、フロアとの質疑応答を行いました。



キックオフシンポジウム会場風景

最後に、瀨瀬理事・副学長よりクロージングの挨拶とYU-AP事業を共に進める学生たちの紹介がありました。廣中平祐 元山口大学長の学長時代の活躍に触れながら、学生とともにYU-AP事業を加速させ、教職員・学生の協働を進めると同時に、教職員・学生そして市民の希望に応えられる大学づくりを行っていくことが述べられました。本シンポジウムは、山口大学・大学教育再生加速プログラム（YU-AP）のまさにキックオフを全国に示すものであり、教員・職員・学生が「知の広場」（ラーニングコミュニティ）を築いていく一歩となりました。

新・正課外教育プログラム （SLP）の開発！

2015年3月10日（火）、橋本 勝 富山大学 大学教育支援センター教授（YU-APアドバイザー）を講師として、第1回スチューデント・リーダー・プログラム（SLP）「学生参画型FDってなに？～大学教育を楽しむには～」を開催しました。

スチューデント・リーダー・プログラム（SLP）は、山口大学・大学教育再生加速プログラム（YU-AP）事業の一環として、新たに開発したな正課外教育プログラムであり、学生がリーダーとしての役割が担えるために必要な知識や態度を養うことを目的としています。

なお、平成27年3月26日（木）には、中澤 二郎 新日鉄住金ソリューションズ人事専門部長（YU-AP外部評価委員）を講師として、第2回SLPを開催しました。



第1回SLP参加者による集合写真

YC.CAM 紹介!!

山大的 デキル を創ります

最近、山口大学の中で知名度を上げてきている大学改善に取り組む学生団体
それが私たち、**YC.CAM**です。
今回、YC.CAMリーダー 杉元菡(理学部4年)がその実態をお教えします!



Q. どんな団体なの?

A. **YC.CAM**(わいしーきゃん)とは、「**山大コーディネーター**」を務める学生団体のことです! 主に、学生FD(学生参画型教育改善活動)やAP(大学教育再生加速プログラム)事業の推進を行ってきました。学生だけでなく、**教職員の方々とも協働しながら大学をよりよくするための活動を推し進めていく所が特徴**です!

Q. 具体的にどんなことをしたの?

A. 学外での活動としては**学生FDサミット2014春・夏**、横浜国立大学主催**AP推進フォーラム**などのイベントに参加しました。また、学内での活動として創基200周年記念イベント・**共育ワークショップ**の企画・運営、今現在手に取っていただいている**共育の丘**だよりの編集作業などに携わってきました。

Q. これからはどんなことに取り組むの?

A. 学内でのチャレンジの場作りとして、正課外活動の一環である**SLP(スチューデント・リーダー・プログラム)の企画・運営**を行ったり、あらゆる**チャレンジに関する情報を学内外問わずに集約するサイト**の構築をしたりといった活動を行っていく予定です。もちろん、学外のイベントにも参加します!

Q. YC.CAMの名前の意味って?

A. Yは山大的のY、CはコーディネーターのC。CAMには**できる**という意味の英単語である「can」、そして**キャンパス**の「cam」の二つの意味が込められています。

Q. 「山大的のデキルを創ります」って?

A. 私たちのモットーです! **山口大学にもっとチャレンジの場としての「デキル」場を創る**ため、このモットーを掲げて活動しています。

Q. どんなメンバーがいるの?

A. **学部・学年を問わず9名**の学生が所属しています(2015年4月現在)。他のボランティア団体やサークル活動にも参加し、活発に活動の場を広げている学生も居ますよ!

Q. もっとお話を聞いてみたい! どうしたらいい?

A. **ぜひ、会いに来てみてください!**とは言っても、私たちYC.CAMのミーティング日程は月によってさまざまです。ミーティングやイベントなどの情報は**Facebookで公開**しているので、気軽に覗いてみてください。

👉 **Contact us !!**

代表者連絡先: **8ページ**をご覧ください。

Facebook : <https://www.facebook.com/yamadaiFD>

Facebookページへの

近道は**こちら** 👉



九州共立大学に
行ってきました！

～関門サミット2014参加記～



2014年11月29日（土）、教員2人と学生FDメンバー4人で関門サミットが開催された九州共立大学に行ってきました！

今回の関門サミットは「今、できること～持続への課題～」というテーマで開催され、7大学から学生43人、教職員12人の参加がありました。山口大学の学生FD活動は今年始まったばかりということで、これまでいくつかのサミットに参加し、様々なことを学ぶことができました。

しかし、他大学の学生FDがどのような活動を行っているのかを知ることができたものの、自分たちが山口大学内行った活動は少なく、また活動を行うメンバーの人数が少ないのが現状です。そこで今回は**今後自分たちがどのような活動していくのかということや、他大学がどのようにメンバーを確保し、どのように活動を継続させているのか**、といったことについてのヒントを得るために参加しました。

関門サミットでは、まず**各大学紹介のプレゼンテーション**がありました。ここでは単なる大学紹介にとどまらず、各大学ならではのユニークな授業や、FD活動について知ることができました。例えば学生FDが授業改善の取り組みとして行っているアンケートの紹介や、学生と教職員が一緒になって行う災害研修の取り組み、学部の自治委員会が行っている古本市など、山口大学にない多くの活動を知ることができました。（ちなみに、山口大学の大学紹介は**リーダーの杉元さん**と、**エースの奥田くん**がプレゼンを行い、会場を盛り上げてくれました！）



各大学の紹介が終わったあとは8グループに分かれてしゃべり場が開催されました。

しゃべり場のテーマは「**学生FD委員会が大学に与えるメリット・デメリット・今後の展望**」。各グループで様々な意見が出され、最後は全体で集まってグループごとに話し合いの結果が発表されました。私のグループは、山口大学、九州共立大学、北九州市立大学の3大学の学生や教職員で構成されたグループでした。それぞれ組織形態や、大学、学生、教員の誰が主体になってFD活動を行っているのか、どのようなことをしているのかが異なっており様々な視点から意見を聞くことができました。

しゃべり場で出たお話の中で**山口大学にない取り組みとして印象に残ったのは、「学生大会」と「投書箱」**でした。例えば学生大会とは、

年に1度行われており、部活動等に充てる予算の承認や、学生の意見を大学側が聞くといった取り組みがされているそうです。（学生大会に参加できるようにその日の授業が休講になるそうです！）当然のことながら大学間に色々な違いがあるので山口大学で、大学が主体となって実施する場合の賛否はあると思いますが、**他大学の力を入れた取り組みに驚きました**。文字数の都合上省略させていただきますが、この他にも山口大学にない取り組みや、活動継続のために各大学どのような工夫をされているのか、など多くのお話を聞かせていただきました。

山口大学学生FDのメンバーは現在少なく、組織を継続するための課題もたくさんあります。今回のサミットで学んだことをしっかりと活かすべく、メンバーでしっかりと話し合っていきたいと思います。

（教育学部4年 福屋 里紗）





ここからのFD活動に意欲を
燃やす訪問でした。

～東洋大学交流 訪問記～

2015年2月23日（月）、学生FD、つまり学生の手で学校をより良いものにしていこうという全国的な事業において関東でより**先進的な活動をしている東洋大学**へ訪問し、そのノウハウや苦勞をお聞きました。

東洋大学のFDグループは現在10人程度で活動をされているそうです。東洋大学での取り組みを聞いてまず私が感心したことは、**学生FD活動がしっかりと大学に認められて位置づけられていること**。そこには過去にFDサミットと呼ばれる全国から同じような活動を行っている学生、教員たちが集まることで情報共有を行うといったイベントを通して、**他大学と関わっていることが大きい**と思いました。東洋大学は都心に近いこともあり、周りに多くの他大学があります。**他大学交流は山口大学でも重要な課題**です。連携をどのようにとっていくかより具体的な意見を聞くことができました。

次に東洋大学の学内で行われている取り組みについてですが、ここでもさすが東洋大学という話題がいくつも出てきました。学生目線シラバスの作成や、履修のお悩み相談会、教員研修会等での意見発表など「**大学を変える**」活動をもう具体的に進められていました。10人という少ない人数でもこれだけのことが「できる」ことに**チームとしてのレベルの高さや周りの温かいサポートがある**ことを知りました。

では、そんな東洋大学さんはすべてがうまくいっているのでしょうか。そこには私たちと**同じような悩み**もありました。FD活動はしばしば後継者問題に陥りがちです。サークルのように募集をかけられない団体も多く、サミットのテーマとして取り上げられるほど**新しいメンバーの獲得**に困っていること。また大学独自の悩みとしてFD担当の先生が2年ごとに変わるため慣れたと思ったら新しい教員が担当になり1から関係を作り直さないといけないということでした。

訪問の最後には関東で1番だと言われている東洋大学の学食でランチを食べたり、私立ならではのハイレベルな大学設備を見学したりと充実した1日を過ごしました。

今回の訪問で私がまず感じたのは、**実践してみる価値**についてでした。これまで私たちは多くの方との交流を通して学校をより良くする方法のノウハウを蓄えました。だから今度は山口大学ならではの大学改善を**実践し**他大学に「**私たちはこんなことをやってみた。**」といえるような団体になろうと思いました。そしてそのビジョンはもう形になろうとしています。

訪問の最後にFDチームの皆さんにこの活動を通して成長や喜びを感じたかを尋ねました。皆さんは自信をもって感じていると答えてくれました。「**自分が満足しなければ人のためには動けない。**」と考えます。私は**何かにチャレンジしている人が自信をもってそれを紹介できる、そしてそれを冷やかす雰囲気なんてない学校**にしたい。そこで自分が自信をもって私はFDにチャレンジしていると言いたい。山口大学はやつとスタートラインに立ちここから山口大学らしさを発揮したFDを目指す。ますますこれから意欲を燃やす訪問となりました。

（経済学部3年 奥田真也）





ワールドカフェ初体験!

※ワールドカフェとは?

メンバーの組み合わせを変えながら、4～5人単位の小グループで話し合いを何度か続けることにより、あたかも参加者全員が話し合っているような効果が得られる対談方式のことだよ!

2015年2月12日(木) 山口大学食堂「きらら」にて、山口大学で様々な行動を行っている学生達(自主活動経験者)が約40名集まり、自分たちの自主活動の魅力伝えるための自主活動交流会が行われました。「山口大学のこれからの自主活動について考える」をメインテーマに置き、1995年アメリカ発祥とされる「ワールドカフェ」形式でセッションごとにグループに分かれ、合計4セッション通じて、自分たちがやっている活動やこれからの自主活動の展望等を話し合いました。

セッションの前半部分では、「自主活動のおもしろさ」や「自主活動の失敗談」等をテーマに、自分たちの経験を通して実際に感じた想いについて各班で共有しました。後半部分では「自主活動に関して大学や地域に望むこと」や、自分たちの経験を多くの山大学生に知ってほしいという思いのもと「より多くの学生に自主活動をしてもらうには」というテーマで各20分間話し合いました。

閉会にあたり、この各セッションの討論を通して各学生たちが自分たちの活動と絡めてこれからの自主活動へ発展するキッカケも含め、①自主活動を行っている学生の目線から山大学生に伝えたいこと、②学校・地域の人たちに伝えたいこと、を模造紙にまとめ、みんなの前で発表しました。具体的には以下の意見が出てきました。①では「国立の大学という利点を生かし、もっと自分の知らない大学の活用できる部分を発見してほしい」という意味合いがある「活用しろ!」、②では「学部や学年を超えた交流の場の提供」などが、あげられました。

最後に、自分は今回大学教育再生加速プログラム(AP)に関わらせてもらっていることに加えて大学入学以来様々な活動に関わってきた身分として参加させてもらった自主活動交流会を通しての私の1番の気づきとしては、自主活動を行っている学生達は自分たちの活動の広報の場、資金的な問題等、多くの問題点があることが分かりました。またそれに加えて、自分自身が文系であることから自主活動をする際にあたって文系からの視点でのみしか考えてきておらず、理系の方たちの自主活動というものに目を向けたことが無かったので、ものづくりに関しての自主活動が存在し、ものづくりならではの難しさもあるということが自分にとって1番の発見でした。自分に無い視点・考え方を学生時代のうちに人との交流を通してより多く感じる事が大切だと感じる事が出来ました。

(人文学部3年 古谷 涼)

他学部の活動について聞くことが出来、とても良い刺激になりました。例えば、おもしろプロジェクトで工学部のロケット作成プロジェクトやソーラーカー等の作成プロジェクトを知り、山口大学でこんなことも出来るのかと本当に驚きました。最後の結論の際に出た、大学内の様々な活動を一括して検索・閲覧出来るようなホームページ等を是非作成してみたいと思いました。人々から出会えてよかったと思えるような話が出来るように、私も活動していきたいと強く感じました。懇親会の方でも他学部の方とお話ができてとても勉強になりました。このような学部間を超えた交流活動を自分達でも主催出来るようになりたいと考えました。

(経済学部3年 朴 玲)



タイムスケジュール等の詳細

・ワークショップのやり方:

発言回数均等に一人1～2

各班 6～8人 ×6班 各回 20分

・第一回 テーマ「課外活動の楽しさ・おもしろさ」

→人々に喜んでもらえ/完成したり、達成したりした時の充実感

・第二回 テーマ「失敗・苦労」

→スケジュール管理/宣伝の難しさ/人員維持の難しさ

・第三回 テーマ「大学・地域との関係について」

→大学: アクセス面での支援

地域: もっと知って頂いて、気軽に参加して頂きたい

・第四回 テーマ「学生に伝えたいメッセージ、大学・地域へのメッセージ」

→学生: もっと活動的になるべし

「aggressive」

大学等: もっと支援をすべし「support」

※第一回～第三回は、異なる班で話し合い

第四回はもう一度最初の班で、まとめ&結論&発表



山口大学創基200周年記念・第2回ワールドカフェ

「200周年記念を盛り上げる企画を考えよう！」



私

は、「創基200周年記念第2回ワールドカフェ」（2015年2月13日（金））に参加しました。

開会に先立って、「山口大学200年のあゆみ」を視聴しました。山口大学の歴史を映像とともに振り返ることで、その一端を知ることができました。山口大学の歴史は在学生として、知っておくべき知識なので大変勉強になりました。また、在学生が帰属意識を高め、山大生として誇りをもつきっかけになると思いました。この映像は入学式などで流すのも面白いのではないかと思います。

さて、今回のワールドカフェのテーマは「創基200周年を盛り上げるために記念事業を学生として企画しよう」というものでした。ワールドカフェは学年や学部の隔たりなく、グループを越えて自由にアイデアを共有するので、普段の学生生活では味わえない貴重な体験になりました。今回の企画内容の特徴として、学外に出て行うものが多くあり、前回の企画内容とは一線を画するものになりました。例えば、「山大生全員で山口観光ツアー」、「山大生と教職員でタスキをつなぐ山口一周200Km駅伝」、「200周年祭」などがありました。ちなみに、私のグループでは200年前の山口講堂時代の学生（藩士）の1日を再現し、体験してみるというものでした。当時の学生に思いを馳せることがコンセプトでした。どのグループも学生ならではの、斬新で奇抜なアイデアがたくさん出ました。まさに、ワールドカフェの真骨頂が発揮されたのではないかと思います。

また、大学職員の方々に私たちの企画案を真剣に吟味していただけて光栄でした。学生の意見を尊重する体制ができていることに驚きました。今後、このように学生が企画した案が採用されるときには、大学職員の方々と連携して私たち学生も責任をもって企画の実現まで携わりたいと思いました。

今回の創基200周年記念第2回ワールドカフェ参加することで、山大生としてのアイデンティティを高めることができたのではないかと思います。また、このように非常に貴重な体験を他学生にもぜひとも経験してほしいと思いました。第3回のワールドカフェの開催が行われることを強く願います。

(理学部 2年 井本圭祐)

1日のタイムスケジュール！

日時：2015年2月13日（金）

場所：山口大学図書館 アカデミックフォレスト

15：00～15：15 開会・田中理事挨拶

「山大200年のあゆみ」視聴

15：15～15：25 ワールドカフェの説明

15：25～15：45 ROUND①テーマの探求

15：45～16：05 ROUND②他花受粉

(他グループと意見共有)

16：05～16：25 ROUND③アイデアの統合

16：25～17：00 ROUND④アイデアの共有

(グループごとに企画内容の発表)

17：00～17：10 閉会・講評



やまぐち探訪記 第三回

(下関・長府)

山口県のプロスポーツといえば、サッカーJ3・レノファ山口が盛り上がっていますね。その昔、プロ野球球団の本拠地が山口県にあったことをご存知でしょうか。下関球場を本拠地とした大洋ホエールズ（現・DeNA）です。今回は、そんな下関にある城下町・長府周辺



を散策し、昭和40年代まであったという山口大学農学部跡を訪ねてみました。現在は、下関市長府体育館・運動場となり、市民の憩いの場となっておりますが、山口大学農学部が下関・長府にあったことは記憶に留めておくべきでしょう。

山口大学農学部跡がある長府は、毛利家の城下町として栄え、現在でも美しい町並みが保存され、高杉晋作が決起したことで有名な功山寺、乃木希典將軍ゆかりの乃木神社など、日帰り散策を楽しめますので、ぜひ足を運んでみてください。

やまぐち探訪の旅は、まだまだ続きます。





大学教育センター 林 透
083-933-5067



林 透(担当教員)
toru-h@yamaguchi-u.ac.jp
杉元 茜(リーダー)
s040df@yamaguchi-u.ac.jp



<http://www.epc.yamaguchi-u.ac.jp/>

*** YC.CAM メンバー**

＜教員＞

林 透
(大学教育センター准教授)
河島 広幸
(大学教育センター助教(特命))

＜学生メンバー＞

杉元 茜	古谷 晃一
朴 珉嬌	古谷 涼
奥田 真也	朴 玲
福屋 里紗	井本 圭祐
	西尾 翔太

発行:
大学教育センター
(2015年5月21日 発刊)

！編集後記！

杉元 茜>>新年度と新メンバーを迎え、ますます加速する一年となりそうです！

朴 珉嬌>>メ切に尻を叩かれっぱなしでした！！
もっと頑張ります！！

朴 玲>>慣れないPC作業でしたが、完成物を見て感動！協力することの素晴らしさを感じました♪

井本>>大学生活を見つめ直す、いい機会になりました。

大学教育は、大学教職員、学生、市民をつなげます